

日刊木材新聞

九州地区のS/E構法供給本格化

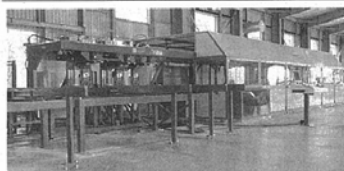
ランバー宮崎を指定プレカット工場に

NCN

エヌ・シー・エヌ(東京都、田沼部男社長)は、ランバー宮崎協同組合(宮崎市、久保国弘代表理事)が新設したプレカットラインをS/E構法の指定プレカット工場とし、操業を開始した。宮崎に加工拠点を設けたことで、これまで運賃コスト面で普及が難しかった九州地区でのS/E構法の登録工務店も新規に募集し、当初、月間20棟の供給を目標し、最終的には同40棟まで引き上げていく計画。

同社では、全棟構造(都)マルコマ(大阪)は、従来は年間20棟程度の物流コストの削減や計算書付きのS/E構法(大)三商行(千葉)日本度の需要があり、関西の物流コストの削減や登録施工店を通じて住宅構造製作所(栃)地区のプレカット工場納期短縮を課題とし、供給しており、これまで木)の6プレカット工で加工し、輸送しているS/E構法指定工場の要件ではセブン工業(岐)場で加工し、供給を行なうが、物流コストが嵩み競争力を発揮できず、み競争力を発揮できずト会社を確認できたことで、ランバー宮崎と

指定プレカット工場の設置で同意。ランバー宮崎の3000平方メートルの工場建屋の中の1000平方メートルを使用し、



ランバー宮崎に導入されたフンデガーK31

S/E構法専用プレカットラインを設置。集成材の両端面の加工、のほり加工などを行うためにドイツのフンデガーのフンデガーK31と専用CADとを連動させるためにソフトなどを含めて総額1億5000万円を投資。4人のS/E構法専任スタッフを置いて対応する。S/E構法は強度、寸法精度などが明らかな構造用集成材を使用するが、九州地区の地域性も考慮し、杉のムク材や異

業種集成材など、S/E構法の指定部材ではない構造材とS/E金物と別注品の金物などを利用し、構造計算を行う。S/E構法ではない形で地場産材に対応した業種建築の供給も行う。NCNでは九州エリアでの新規登録店の募集中。集セミナを11月26日(福岡)、27日(熊本)で開催する予定。